



城だより

第671号

日本古城友の会・会報

令和6年(2024)11月3日発行

近江 国指定史跡清水山城跡と本堂谷遺跡(井ノ口館)を訪ねる (12月第734回例会)

日時：令和6年12月1日(第1日曜日) 現地集合 雨天決行(行程変更あり)
集合：JR湖西線 新旭駅改札口前 10時15分集合
行程：新旭駅(徒歩約20分)⇒新旭森林スポーツ公園(徒歩約20分)⇒清水山城【東屋敷跡(越中殿)→西屋敷(加賀殿)→大門跡→I曲輪下畝状堅堀→I曲輪・II曲輪堀切→II曲輪→I曲輪(主郭・虎口・礎石建物)→堅堀→大堀切→北出曲輪群他→下山】→本堂谷遺跡(井ノ口館)⇒新旭駅(15時30分頃)
※参考 新旭駅16時14分発(新快速姫路行)に乗車

アクセス：新快速「近江今津行」JR大阪駅8:45発→京都駅9:14着・9:16発→新旭駅10:01着

案内講師：滋賀県立大学名誉教授 中井 均先生

担当幹事：中西 徹・平川大輔

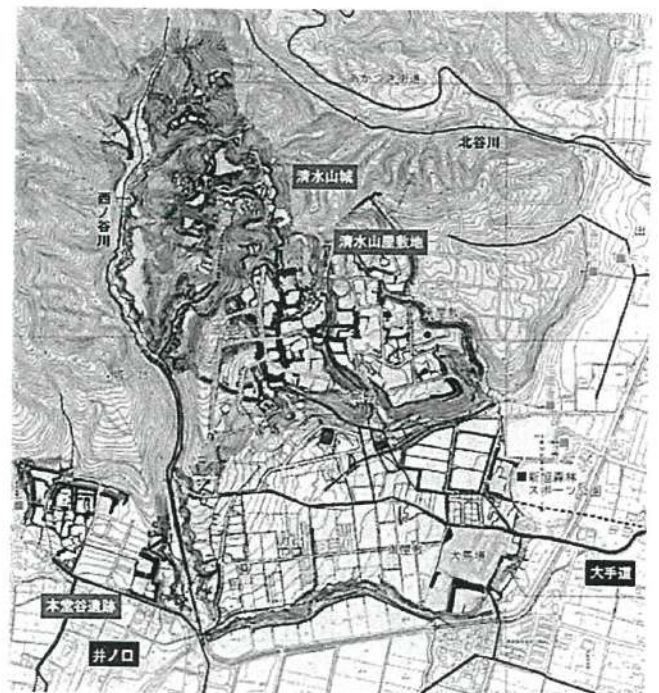
持ち物：弁当(事前に準備してください)・飲物・敷物・帽子・ハイキング靴・ステッキ・軍手・タオル・雨具を持参してください。マスク着用は各自の判断でお願いします。

参加費：正会員・賛助会員 1,000円、通信会員・当日参加者 1,500円
(資料代・保険代・記念写真代・下見費用・講師謝礼として)

問い合わせ：中西 徹 (090-6827-8538)

【今回の見どころ】

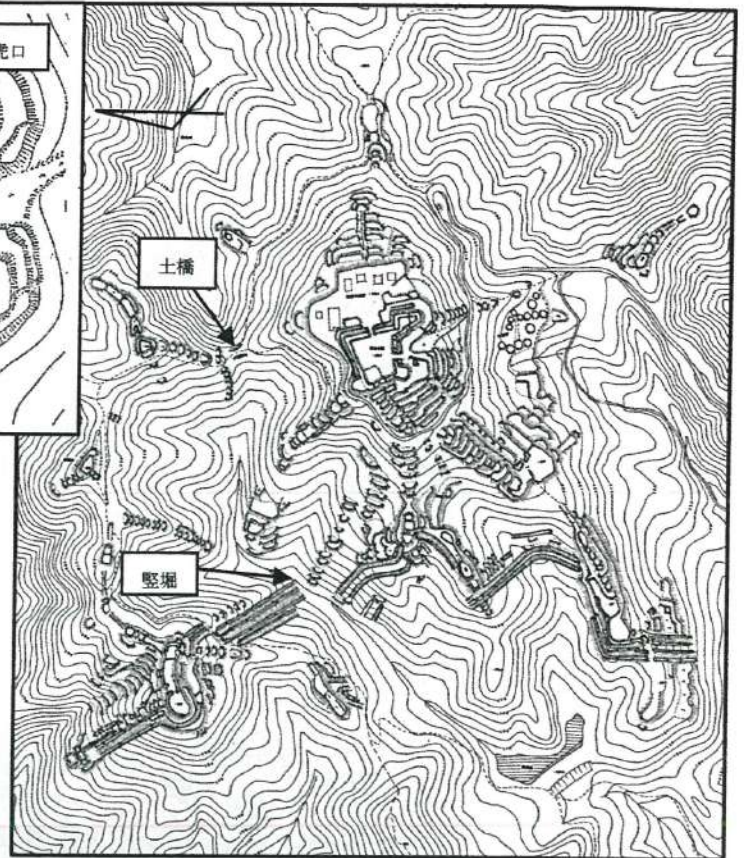
清水山城は高島七頭(越中、田中、朽木、永田、平井、横山、山崎各家)の惣領家である越中氏の居城と伝えられる。曲輪・土塁・堀切・堅堀・畝状空堀群・虎口遺構の保存状態が良く、中世の在地土豪の城館を考える上で重要である点が評価され、平成16年(2004)国史跡に指定された。清水山城は、^{あいぼの}饗庭野台地南東部にある丘陵上に立地しており、南部に安曇川、東側には西近江路が通る要衝の地に位置している。標高210mの山頂部にある主郭Iを中心に、三方へ派生する尾根上に曲輪を配置する放射状連郭式の山城である。主郭内部では、発掘調査により、六間×五間の大規模な礎石建物が出土しており、多数の土器類や金属製品が出土していることから山上での居住空間を兼ね備えていたと考えられている。



清水山城館跡と周辺の概要図 : 滋賀県教委作成から

望む北西隅と南西隅に、櫓台1と櫓台2とされる突出部がありましたが、樹木が茂り眺望は良くありませんでした。南東隅には櫓台3の突出部があり、内部は3段に区画され、土塁に囲まれた窪地状であることから、半地下式構造を持つ櫓の存在が推定されるとのこと。南側の大手虎口（高さ2m、幅6mの平虎口）を見て、下山を開始しました。

家族連れと一緒にアスファルト道を下り、人通りが無く湧き水の多い林道(4号歩道)を通り、鳥取藩主・池田家の菩提寺である興禅寺前に下山しました。散策時間5時間15分、徒歩8.5kmでした。



(太閤ヶ平周辺 縄張り図 参考資料(1)から)



(秀吉の本陣 ⑩土塁と空堀)



(秀吉の本陣跡 馬場跡から見た搦手虎口)



(秀吉の本陣 ⑪内郭と土塁)

参考資料

- (1) 史跡鳥取城跡附太閤ヶ平 発掘調査報告書Ⅳ (2018年鳥取市教委)
- (2) 鳥取城調査研究年報 第1号 (2008年3月鳥取市教委)
- (3) 国指定史跡日本百名城鳥取城跡 (2015年 鳥取市教育委員会)



(秀吉の本陣 櫓台3の窪地状の突出部)



(秀吉の本陣 大手虎口)

(終)

日本古城友の会

会長 中西 徹
事務局 事務局長 平川 大輔

HP アドレス <https://www.kojyo-tomonokai.com/>

編集・発行 編集部長 下岡 力